



定期接種と任意接種のワクチン

No.02

定期接種と任意接種のワクチンについて、その違いと重要性を解説します

定期接種のワクチンとは？

定期接種のワクチンとは、「予防接種法」と呼ばれる予防接種の規則を決めた法律に書かれているワクチンのことです。現在、日本の子どもたちには、定期接種のワクチンとして10種類が認められています。これらのワクチンの費用は、原則、地方自治体から支払われますので、無料で接種が可能です。国内で子どもたちに定期接種のワクチンとして接種できるワクチンを表1にまとめました。

任意接種のワクチンとは？

任意接種のワクチンは、国がそれを使うことを認めているものの、「予防接種法」で規定されていないワクチンのことです。接種に必要な費用は、原則、個人が負担します。尚、一部の地方自治体では、その費用を一部、または、全額負担してくれるところもありますので、お住いの地方自治体にご確認ください。現在、子どもたちに接種可能な任意接種のワクチンを日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュールに含まれているものといないものに分けて、表1にまとめました。

● 表1 小児の定期接種と任意接種のワクチン一覧

	定期接種のワクチン	任意接種のワクチン
日本小児科学会が推奨する 予防接種スケジュールに 含まれる	<ul style="list-style-type: none"> ● ヒブワクチン ● 肺炎球菌結合型ワクチン ● B型肝炎ワクチン ● 四種混合ワクチン ● 三種混合ワクチン ● 不活化ポリオンワクチン ● BCG ● 麻疹・風疹混合(MR)ワクチン (麻疹ワクチン、風疹ワクチン) ● 水痘ワクチン ● 日本脳炎ワクチン ● 二種混合ワクチン ● ヒトパピローマウイルスワクチン 	<ul style="list-style-type: none"> ● ロタウイルスワクチン ● おたふくかぜワクチン ● インフルエンザワクチン
日本小児科学会が推奨する 予防接種スケジュールに 含まれない (リスクを考えて接種する)		<ul style="list-style-type: none"> ● A型肝炎ワクチン* ● 髄膜炎菌ワクチン* ● 23価肺炎球菌多糖体ワクチン** ● 黄熱ワクチン* ● 狂犬病ワクチン* ● 破傷風トキソイド ● ジフテリアトキソイド

* : 「海外に行く時に必要なワクチンNo.09」を参照のこと

** : 脾臓を取った患者さん、免疫が低下している患者さんなどが接種する



定期接種のワクチンと任意接種のワクチンの違いは？

定期接種のワクチンと任意接種のワクチンに、原則、差はありません。2つの差は、あくまで制度上のものであり、共に重要なワクチンです。尚、稀ですが、副反応が起こった場合、その補償の金額などが異なります。2つのワクチンの比較を表2にまとめました。

●表2 定期接種と任意接種のワクチンの違い

	定期接種のワクチン	任意接種のワクチン
予防接種法での規定	あり	なし
費用負担	原則なし	あり。一部地域によっては一部または全額費用負担あり
起こった場合副反応が	予防接種法に基づく対応	医薬品医療機器総合機構（PMDA）の医薬品副作用被害救済制度による対応

費用を支払っても、任意接種のワクチンを接種する必要はありますか？

必要です。任意接種のワクチンは、その効果と安全性が十分に確認されているワクチンです。詳細は、それぞれの「ワクチンで予防できる病気について」をご覧ください。任意接種のワクチンは、費用負担がありますが、その重要性は、定期接種のワクチンと全く同じです。ですので、一時的な費用の負担はありますが、お子さんのこれからの長い人生を考えて、ワクチンで予防できる病気にかからない、かかっても軽く済ませるためにも任意接種のワクチンを接種して予防することが重要です。

今後、任意接種のワクチンが定期接種のワクチンになる可能性はありますか？

あります。現在、任意接種のワクチンは、その効果、安全性などについて、国内で十分なデータがそろっていないため、定期接種のワクチンになっていない現状があります。これらのデータがそろえば、これらのワクチンが定期接種のワクチンとなる可能性があります。



ただし、その時期を待っている間に、そのワクチンで予防できる病気にかかってしまう可能性がありますので、接種できる時期がきたら、確実に接種しておくことが重要です。

日本小児科学会推奨のスケジュールに記載のない任意接種のワクチンは、接種する必要はありますか？

子どもに接種できる任意接種のワクチンの中には、日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュールに記載されていないワクチンもあります。例えば、A型肝炎ワクチン、肺炎球菌多糖体ワクチン、髄膜炎菌ワクチン、狂犬病ワクチン、黄熱ワクチンなどです（表1）。これらのワクチンは、ワクチンで予防できる病気へのリスクを考えた上で、接種が必要かどうかを検討する必要があります。実際の接種は、「海外に行く時に必要なワクチンNo.09」を参照いただくか、あるいは、お子さんのかかりつけ医にご相談ください。

